【草花の部屋】

オステオスペルマム（キク科オステオスペルマム属　Osteospermum）

和名：オステオスペルマム　別名：アフリカキンセンカ、アフリカンデージー

英名：African daisy

キク目　宿根多年草　　原産地：アフリカ南部、熱帯アフリカ

花言葉：元気、無邪気、変わらぬ愛、ほのかな喜び、健やかな人

花色：白、橙、黄、紫、桃、複色

← 写真-１　オステオスペルマム
撮影日：2018 年 04 月 25 日
撮影場所：サントリーニ島(ギリシャ)にて
撮影者：M　さん

↓ 写真-２　オステオスペルマム
撮影日：2018 年 04 月 25 日
撮影場所：サントリーニ島(ギリシャ)にて
撮影者：M　さん

← 写真-３　オステオスペルマム
撮影日：2018 年 04 月 25 日
撮影場所：サントリーニ島(ギリシャ)にて
撮影者：M　さん

サントリーニ島で宿泊したホテルの花壇に咲いていました。花弁の裏側には、紫色の筋が入り、しかも螺旋状の開花中の姿に惹かれました(写真-３)。

一見、同じ植物？と思うほど似ている植物に、ディモルフォセカ(Dimorphotheca)があります。かつては同属(ディモルフォセカ属)だったようですが、近年、オステオスペルマム属とディモルフォセカ属に分かれたそうです。が、両者が容易に雑種を造るため、正確な分類は困難だそうです。

夜間や天気の悪い日は花を閉じる性質がありますが、花が閉じにくい、もしくは閉じない園芸品種も増えているそうです。葉は少し肉厚なので、多肉植物の仲間？と思いました。

日本で出回っているのはオステオスペルマム・バーベリエ、オステオスペルマム・フルティコサムなどを交配させた、多年草の園芸品種で、株を埋めるように次々と咲くカラフルな花が特徴だそうです。花色は紫、白、桃が中心でしたが、近縁のディモルフォセカとの交雑によって、黄花や橙色の花を咲かせる、開花期間が長い園芸品種も誕生しています。

園芸店などで出回っているもののほとんどは改良された園芸品種だそうです。比較的、新しく出回り始めた植物で、花弁の先がスプーンのようにふくらむユニークなものもあるそうです。

← 写真-４　オステオスペルマム
撮影日：2018 年 04 月 25 日
撮影場所：ナザレ
(ポルトガル)にて
撮影者：Ｍ　さん

→ 写真-５　オステオスペルマム
撮影日：2018 年 04 月 25 日
撮影場所：ナザレ
(ポルトガル)にて
撮影者：Ｍ　さん

← 写真-６　オステオスペルマムの葉
撮影日：2018 年 04 月 25 日
撮影場所：ナザレ
(ポルトガル)にて
撮影者：Ｍ　さん

写真４～６は、ポルトガル中部の大西洋岸にあるナザレのノッサセニョラ教会で見かけました。

＜ちょっと一言＞

オステオスペルマムとディモルフォセカの違い

＊オステオスペルマム

・多年草で花茎に葉が付く。

・舌状花のみ、受粉してタネを作る。

＊ディモルフォセカ

・一、二年草で花茎に葉が付かない。

・舌状花と管状花ともに受粉してタネを作る。

＊一般的には多年草のもの(多くが赤・桃系の色合い)をオステオスペルマム、一年草の性質が強いもの(多くが黄色・橙系)をディモルフォセカと呼んで流通しているそうです。

＊舌状花(ぜつじょうか):花弁の一枚一枚が独立した花。

＊管状花(かんじょうか)：花の中心の丸い部分で管状の花がピンを立てたように密集しています。